

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800422		
法人名	特定非営利活動法人宅老所あじさい		
事業所名	グループホームあじさい室津		
所在地	山口県下関市豊浦町大字室津下1443-1		
自己評価作成日	令和2年7月17日	評価結果市町受理日	令和2年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○ 重度化したときは、主治医・家族と相談しながら、家族の意向も確認して看取りまで行っている。 ○ 毎月、あじさいだよりと、なかなか面会へ来れない家族には 入所者様の生活の様子を文章にしたため、近況報告を送付している。 ○ 入所者様には、その方にあった役割をもってもらい、充実した日々が送れるような支援をしている。 ○ 事業所内での勉強会を毎月行い、職員の質の向上に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この度の新型コロナウイルス感染防止対策として、利用者の外出や家族の面会が制限される中、利用者の生活が沈んだものにならないように、職員は、月一回開催しているお茶会に、利用者の好みのお菓子を準備されたり、カラオケ大会を合わせて開催され、おおいに盛り上がっているなど、状況や季節に合わせた行事を工夫されて、利用者の楽しみごとや気分転換の支援をしておられます。これまでも、家族に利用者の日頃の表情や行事の様子を伝えるため、写真を多用した事業所だよりを、毎月発行してこられました。面会が困難になった家族のため、さらに、請求書送付時にも、利用者一人ひとりの近況を写真とコメントを添えて丁寧にお知らせされ、家族の安心につなげておられます。利用者が重度化した場合の家族の不安と、看取りへの要望を受け、管理者と職員は看取りに関する研修を受講されて学びを深められ、この一年で3人の看取りに取り組まれて、家族からの感謝の声と信頼を得ておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基とした事業所の理念をつくり、事業所内に掲示している。年1回、勉強会と運営推進会議でも説明し、共有・理念の実践に努めている。	法人の理念を基に、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。朝礼時や夕礼時に唱和し、管理者が理念について説明している他、年1回、内部研修で代表者が理念について指導し、全職員で話し合っ共有している。理念に立ち返り、コロナ禍の中で、行事を工夫したり利用者が活躍できる場を増やして、利用者に笑顔が見られるようなケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学生が生活学習として来苑したり、地域の子供神輿の来苑もある。どんど焼き・文化祭・クリスマス会といった地域の行事へも参加し、地域の方々と交流が持てるようにしている。	利用者と職員と一緒に、地域のどんど焼きやひな祭り、クリスマス会、公民館の産業文化祭に出かけている。子供みこしの来訪がある他、地元小学生の総合学習の受け入れをしている。拠点施設でのボランティア(ハーブやたて笛)の演奏会に出かけ、利用者で交流している。近隣の散歩や受診時に外出した時には近所の人と気軽に挨拶を交わすなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や公民館館長に運営推進会議に参加していただき、地域の方へ認知症や支援方法を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	勉強会や職員会議で、自己評価についてと外部評価結果・目標達成計画を話している。自己評価に関する書類を配り、各職員に記入してもらい、管理者がまとめている。	自己評価は、管理者が評価の意義を職員に説明し、自己評価のための書類を全職員に配布して、一人ひとりが記入したものを再度確認してまとめ、回覧している。評価をとおして日頃の業務の振り返りを行っているが、全職員が評価の意義を理解し、取り組みに活かしているとは言えない。	・評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回開催し、入所者様の状況・サービス提供の状況・行事報告・研修報告を行っている。最後に、質疑応答や出席者からのお知らせ等をうかがい、意見交換している。	会議は年6回開催することとしているが、新型コロナへの対応の為、4月はメンバーへの資料の送付とハガキによる意見の収集を行い、6月以降は1ヶ月ずつ延期している。利用者の状況や行事、研修会の報告を行い、理念、身体拘束、消防訓練、感染症対策、看取りについて、ヒヤリハット報告、自己評価及び外部評価などを議題として意見交換している。新型コロナに関する相談窓口について情報提供があったが、具体的な改善につながる意見は出ていない。	・運営推進会議を活かした取り組みの工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者・包括支援センター担当者に運営推進会議に参加していただき、情報交換し連携が図れるよう努めている。	市担当者とは、運営推進会議時に情報交換をしたり相談をし、助言を受けているなどきゅうお力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に利用者の状況を相談したり、情報交換しているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、勉強会を実施しマニュアルの確認や拘束について学び、拘束をしない支援を行っている。日中、窓や玄関の鍵は施錠せず、自由に外を眺めたり、職員と一緒に外出できるようにしている。	職員は、内部研修で年2回、身体拘束に関する研修を受けたり、身体拘束ゼロの手引きや法人のマニュアルを閲覧して理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出したい利用者に気づいたら職員も一緒に出かけ気分転換の工夫をしている。スピーチロックについて、気になるところがあれば管理者がその都度指導している他、職員同士でも注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの他、毎年勉強会を実施している。虐待について理解し、支援方法や声掛け・言葉遣い等で気になることはその場で職員同士が注意しあうようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、勉強会を実施している。全職員が権利擁護に関する制度の理解と活用について理解できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき説明したうえ、疑問点や不安点を尋ね、再度説明したり、話し合うなどしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に苦情窓口を記載し、契約時に説明している。面会や電話で家族の要望や意見を伺うようにしている。家族より「なかなか面会に行けないが、どんな様子ですか」と尋ねられたことがあり、生活の様子を文章にして送付するようにした。	苦情や相談の受付体制や処理手続き、第三者委員を定め、契約時に家族に説明している。面会時や電話等で、家族からの意見や要望を聞いている。毎月利用者の様子や行事などがよく分かるように事業所だよりを発行すると共に、新型コロナの影響で面会が難しくなってからは、さらに請求書送付時に利用者の近況を写真を活用して伝え、意見が出やすくなるよう工夫している。家族から看取りについて意見や要望があり、管理者と職員は看取りに関しての研修を受講してケアに取り組んでいるなど、意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の役職は職員会議に参加し、職員の意見を聞く機会を設けている。管理者は、日々の朝礼や夕礼でも意見を聞くようにしている。	月1回の職員会議や朝礼、夕礼の申し送り時に職員からの意見や提案を聞いている他、管理者は日常業務の中でも聞いている。職員の意見から、テーブル数を増やして、利用者同士の交流を安定させたり、ケアに関する意見についてその都度、職員間で話し合っサービスに反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日、朝礼・夕礼の報告を受け、また相談事などあれば、その都度 個別に話を聞き、環境や条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、職員が講師となって 毎月の勉強会を行い、法人全体の研修も実施している。研修後は、研修記録を提出し、内容の振り返りを行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供しており、管理者が「看取りについて」の講座を受講している。。内部研修は年間計画に基づいて、管理者が講師となって月1回開催し、身体拘束・虐待、法令遵守と個人情報保護、記録の書き方、感染症対策、看取り、リスクマネジメント、認知症などをテーマに開催している。受講後は全員が研修記録を書き、回覧して共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修に参加し、交流する機会をもつようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と関わることはない。前ケアマネや本人・家族から話を聞き、要望に対応しながら、安心した生活を送り、信頼してもらえるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設見学をしてもらったり、契約時に不安や要望があれば伺い対応している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を含め、家族とアセスメントを行い、その時点で一番必要とされる支援計画をたてている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機がけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器拭きと本人に役割をもってもらい、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話の他に、あじさいだよりと本人の近況を文章にしたため送付している。何かあれば、すぐに連絡・相談して意向を伺いながら、共に支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会の他、近所の親戚や友人も面会に来られている。家族の協力のもと外泊し、馴染みの場所・人との関係維持に努めている。	家族の面会や親せきの人、知人、友人などの来訪を支援をしている。事業所近くからの新入居者があり、近所の人の来訪やその人宅への訪問を支援している。家族の協力を得て外食や外泊、一時帰宅、墓参り、馴染みの美容院の利用など、なじみの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入所者様の性格や相性を把握し、職員が間 に入り関わりが持てるよう支援したり、自発的 に交流できるような席の配置にしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何かあれば相談や支援するよう にしているが、相談等はなかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	アセスメントシートや情報提供書から、思い や暮らし方の把握をしている。また、関わり の中で、入所者様の発した言葉や行動を記録 し、本人の思いや意向お把握するよう努めて いる。	前ケアマネージャーからの情報提供書や、入 居時のアセスメントで思いや暮らし方の把握 している。日々の関りの中での利用者の言葉 を色分けして介護記録に記録するなどの工 夫をして、思いや意向を把握するよう努めて いる。月1回の職員会議と同時に開催してい るカンファレンスで、職員が気づきを話し合 い、利用者一人ひとりの思いを把握するよう 取り組んでいる。困難な場合は家族から情報 を得て、職員間で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	前施設からの情報提供書や入居時のアセス メントシート、または家族から環境や生活歴 を伺い把握するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	介護記録に、日々の状態・行動・発した言葉 を残し、朝礼や夕礼で申し送りし、現状の把 握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、カンファレンス を行い本人や家族の意向を取り入れた介護計 画を作成。入所者様の状態に変化があった 場合は、主治医・家族の意見を聞き、その時 の状態にあった介護計画の作成をしてい る。	計画作成担当者を中心に月1回のカンファ レンスで話し合い、本人や家族の意向を聞き、 主治医や看護師など関係者の意見を参考 にして介護計画を作成している。6ヶ月ごと にモニタリングを実施し、6ヶ月ごとに 介護計画を見直している。利用者の状況 の変化がある場合には、その都度見直し をして、現状に即した介護計画を作成 している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、本人の言葉は青色、家族・職員の言葉は赤色と色分けして記入し分かりやすくしている。朝礼・夕礼で申し送りし、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者様の状態変化や家族からの要望があれば、すぐに話し合い、できる範囲内での柔軟な支援を行うようにしている。看取りのご家族から、訪問看護の要望があり、主治医へ相談し対応した。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加し、地域の方々との交流を通じて豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者様により、かかりつけ医が異なるが、月2回の往診がある。受診結果は通院・往診記録と申し送りノートに記入し職員間で共有している。家族へは、面会時や手紙で伝えている。緊急時は、上司の指示を仰ぎ、主治医へ連絡するなど適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者は希望により、協力医療機関や以前からの医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは月2回の訪問診療がある。歯科は必要に応じて往診がある。遠方の医療機関を除き、他科受診を含め事業所が受診の支援をしている。遠方の医療機関は家族の協力を得ており、受診時には職員が口頭で利用者の健康情報を伝える他、日々のバイタルサインを記入した健康管理表で、医師に情報を提供している。受診の結果は電話や面会時、請求書送付時の近況報告時に家族に知らせ、「通院・往診記録表」に記録して職員間で回覧したり、「申し送りノート」で職員間で共有している。夜間や緊急時は代表者に連絡して指示を得て、主治医と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者様の体調変化や皮膚の状態などを伝え、相談やアドバイスを受けて適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、定期的に病院を訪問し、病院関係者と情報交換し関係づくりに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「看取り介護・医療連携体制の同意書」に基づき、事業所のできる対応を家族へ説明している。実際に重度化した時には、家族へ確認し意向を聞きながら、主治医・看護師・介護職で話し合い、方針を決め支援している。	契約時に「看取り介護・医療連携体制の同意書」に基づいて、事業所のできる対応を家族に説明している。管理者が看取りの外部研修を受講し、内部研修で職員に復伝講習を行って、この1年で3名の看取りの支援を行っている。実際に重度化した場合は、主治医など関係者の意見を参考に、早い段階から再度、家族と相談し、要望に応じて訪問看護師と連携しているなど、関係者で方針を決めてチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故など発生した場合は、「ヒヤリハット報告書」または「事故報告書」に内容・原因・対策などを記入し、回覧や申し送りして共有している。緊急時の対応や、リスクマネジメントを毎年勉強会で行い、職員は実践力を身につけるようにしている。	事例が発生した場合は、その日の職員で話し合い、「事故報告書」や「ヒヤリ・ハット報告書」に内容、原因、対策などを記入して申し送りで報告し、回覧している。月1回の職員会議で再検討し、再発防止や一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応、感染症予防、リスクマネジメントなどについて学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定での消防訓練を行い、避難経路・避難場所の確認、消火器の使用方法、入所者様参加の誘導訓練など行っている。地域との協力体制を築くにはいたっていない。	年1回消防署の協力を得て、昼間を想定した消火、通報、避難訓練を利用者も参加して実施し、運営推進会議で報告している。年10回、事業所独自に昼夜を想定した通報、避難訓練を実施し、内6回は利用者も参加している。自動火災通報装置を設置している。地域との協力体制を築くには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様の人格を尊重し、尊敬の念をもって接している。トイレや入浴介助では、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛けている。不適切な声掛けや対応があれば、職員同士で注意しあっている。	職員は、内部研修で認知症や身体拘束、権利擁護、個人情報保護などについて学び、利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。利用者には人生の先輩として尊敬の念をもって接している。不適切な対応があれば管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。個人情報の取扱いに留意し、守秘義務を順守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができる方には希望を聞いたり、自己決定できるような声掛けを心掛けている。意思表示の難しい方は表情や仕草で把握できるよう、日々の観察をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでテレビ鑑賞や塗り絵をする方、居室でゆっくり休むか方、それぞれのペースで本人の自由に過ごせるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人がすべての洋服を選択することは難しいため、どちらの上着にするか選んでもらったり、入浴後は自分で髪をといってもらっている。定期的に訪問理容があり散髪している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも、各入所者様に応じた形態で厨房から配食される。入所者は、食器拭きやテーブル拭きなどできることをしている。苦手な食べ物には別メニューでの対応や、誕生日の日には、赤飯やちらし寿司、刺身など楽しめる献立になっている。	三食とも委託業者の配食サービスを利用し、委託先に利用者の好みや食べやすい形状等の情報を伝え、一人ひとりに合わせた形状で提供したり、苦手なものは食品交換をしている。利用者は職員と一緒に、台拭き、食器拭き、下膳などできることをし、同じテーブルで会話をしながら食事をしている。お茶会でのお菓子(どら焼き、かき氷、サツマイモ団子、フルーツポンチ、ゼリーカステラなど)や好みのお茶(抹茶、カフェラテなど)、誕生会のお菓子や刺身、赤飯、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものとなるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を記録して、一人ひとりの摂取量を把握し、主食の量の調整等を行っている。嚥下状態に応じて形態も変えている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯は毎晩洗浄液につけ清潔保持に努めている。入所者の状態に合わせ、口腔スポンジを使用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	「排泄・水分表」を記入、活用して排泄パターンを把握し、声掛けや誘導をし、一人ひとりの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「排泄・水分表」を記入し排便の確認をしている。便秘気味の方は、主治医へ相談し便秘薬やグリセリン浣腸を処方してもらっている。飲み物は数種類準備して好みの物を飲んでもらい水分摂取量を増やすよう努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日 9時半頃から14時半頃までの間で入浴可能で、タイミングを見ながら声掛けをしている。状態によってシャワー浴で対応したり、入浴を嫌がる場合は無理強いせず、時間をずらしたり、職員を替えて個々に応じた対応をしている。	毎日10時から12時までと1330分から15時まで、利用者が希望する時間に入浴できる。利用者の体調に合わせて、清拭、足浴、部分浴、シャワー浴の支援を行い、必要な人には2人対応で支援している。柚子湯で気分転換をしたり、入浴したくない人には、無理強いをせず、職員を替えたり時間をずらす、言葉かけの工夫をするなどして個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で居室に行き休まれる方、体力が低下している方には居室で休む時間をつくっている。温度調節も行い快適に休めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の表をファイルし、いつでも見れるようにしている。薬に変更があった場合は、申し送りノートに記入し朝礼・夕礼で情報共有している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭きといった役割、誕生日会や季節の行事、体操や壁面飾りなどのレクリエーションなどを行い、気分転換を図る支援をしている。	季節の行事(かき氷パーティ、お月見会、敬老会、運動会、忘年会、節分、ひなまつり、花祭りなど)、お茶会、季節の壁面飾りづくり、誕生会、歌を歌う、カラオケ大会、テレビ視聴(水戸黄門など)、新聞を読む、生け花、ラジオ体操、リハビリ体操、ストレッチ体操、風船バレー、ボール投げ、ボウリングゲーム、トランプ、カルタ、ぬり絵、折り紙、お手玉、居室の掃除、共有スペースの掃除機かけ、食事の準備や片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、戸締りなど、活躍できる場面をづくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見やミカン狩り、地域の行事への外出、家族協力の外泊など、戸外に出かける支援をしている。	季節の花見(コスモス)、地区の行事(公民館の産業文化祭、ひな祭り、クリスマス会、どんど焼き)、小学校学習発表会、ミカン狩り、法人主催の焼き芋会、近隣の散歩や外気浴、買物、家族の協力を得ての夕食、美容院の利用など、利用者の希望に沿って出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者様1名のみお金を所持しているが、他の方は所持していない。必要な物がある場合は家族へ連絡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内に電話はあるが、本人が自ら電話することは無い。家族からかかってきた時に本人と変わることはある。手紙や葉書が届いた時には本人に手渡し、本人が保管されている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁面に季節の飾り物をしている。リビングにはソファを置き、入所者様がくつろげるようにし、廊下にはベンチを置き、一休憩できるようにしている。エアコン・床暖房も設置し温度・湿度調整しながら居心地の良く過ごせるようにしている。	リビングは十分な広さと明るさがあり、テレビの前のソファで利用者はいつでも思い思いにくつろぐことができる。廊下に行事の時の利用者の写真や利用者が職員と一緒に作った折り紙作品などを飾っている。床暖房やエアコンを設置し、温度、湿度、換気に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで他の方と少し距離をとったり、2つだったテーブルを3つにして気の合う入所者様同士が座ることができるようにして、思い思いに過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや、ぬいぐるみなどを持ち込まれている。好みのカレンダーや家族からの手紙や写真などを壁に貼り、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	チェスト、衣装掛けスタンド、衣装ケース、温度計、家族のアルバムなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真やカレンダー、折り紙作品、職員手づくり壁かけなどを飾って、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはネームプレート、トイレや浴室には表示をして分かりやすくしている。廊下・リビング・トイレ・浴室には手すりを取り付け安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームあじさい室津

作成日：令和 2 年 12 月 18 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	職員に自己評価の書類を配布し、一人ひとりに記入してもらっているが、全職員が評価の意義を理解しているとは言えない。	全職員が自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かした取り組みをする。	職員会議や勉強会で意義を説明することを続け、外部評価結果・目標を職員間で共有し取り組む。	1年
2	5	今期はコロナウイルスの関係で、運営推進会議の開催が1度のみで、他は資料を送付しハガキでの意見収集となった。運営推進会議を活かした取り組みができていない。	運営推進会議を開催し、要望・意見をいただきサービスの向上に活かす。	運営推進会議を開催し、意見交換をする。意見の述べやすい課題を考える。	1年
3	35	事業所内の勉強会で、緊急時の対応を定期的に学んでいるが、全職員が実践力を身につけているとはいえない。コロナウイルスの関係で、今まで年1回行っていた消防署署員による心肺蘇生の実技研修ができなかった。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。	緊急時の対応や応急手当の事業所内での勉強会を継続する。 消防署指導による心肺蘇生の実技研修を実施する。	1年
4	36	運営推進会議時に行っていた消防署立ち合いの消防訓練ができず、地域の方の参加がなかった。災害時などの地域との協力体制が築けていない。	災害時に地域との協力体制が築ける。	消防署立ち合いの消防訓練を行い、地域の方にも参加していただく。 地域での災害訓練などあれば参加し、関係づくりをする。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。